

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：12605

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25780306

研究課題名(和文)中国の人口問題 一人っ子政策による国際人口移動への影響

研究課題名(英文) Population Issues of China: Influence on international population migration by one-child policy

研究代表者

聶海松(Nie, Haisong)

東京農工大学・(連合)農学研究科(研究院)・助教

研究者番号：10626716

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：中国では、経済発展にともなう農村部から都市部への労働人口の移動や、“一人っ子政策”の厳しい賞罰制度を逃れるための北京・上海などの経済発展を遂げた都市部から香港への妊婦の移動など、人口が流動化している。このような人口流動は、すでに国際的なものとなり、今後さらに規模が大きくなると予想されているが、周辺各国に対する影響の大きさについて、本格的な実態調査はまだ行われていない。本研究では、中国の経済発展および人口抑制とグローバルな人口移動の関係について、一人っ子政策の焦点を当てた実証調査を行い、日本に代表される少子高齢化が進んだ周辺各国に対する長期的な影響を予測した。

研究成果の概要(英文)：In China, population is fluidizing including movement of the working population from rural areas to the urban areas accompanying economic development and the movement of pregnant women from the urban areas that accomplished economic development such as Beijing and Shanghai to Hong Kong in order to escape from the strict punishment system of one-child policy. Such population flow has already become international, and it is expected that the scale will further increase in the future, but full-scale investigation on the magnitude of the influence on neighboring countries has not been done yet. In this study, we conducted empirical investigations focusing on one-child policy on relationship among China's economic development, population control and global population migration and predicted long-term influence on neighboring countries.

研究分野：人口社会学

キーワード：中国 一人っ子政策 人口問題 人口移動 影響 越境出産 越境通学 香港

1. 研究開始当初の背景

中国では、経済発展にともなう農村部から都市部への労働人口の移動や、“一人っ子政策”の厳しい賞罰制度を逃れるための北京・上海などの経済発展を遂げた都市部から香港への妊婦の移動など、人口が流動化している。このような人口流動は、すでに国際的なものとなり、今後さらに規模が大きくなると予想されているが、周辺各国に対する影響の大きさについて、本格的な実態調査はまだ行われていない。

2. 研究の目的

本研究では、中国の経済発展および人口抑制とグローバルな人口移動の関係について、一人っ子政策に焦点を当てた実証調査を行い、日本に代表される少子高齢化が進んだ周辺各国に対する長期的な影響を予測することを目的とした。

3. 研究の方法

人口社会学の視点からのサンプリングによるアンケートおよびインタビュー調査により、国内移動及び新華僑の国際移動に関する社会学的意識調査の実施および分析を行った。調査結果の一次情報として、中国語の情報が蓄積された。調査結果の解析は、翻訳時のバイアスを排除する目的で、テキストマイニングなどは一次情報である中国語で行った後、日本語に翻訳した。

フィールド調査の時期および対象は次のとおりである。

年度	流出地	流入地	調査方式
H25	全中国 富裕層	香港への妊婦	インタビュー
H26	上海・ 北京	日本東京・ 宮崎・関西	インタビュー
H26	海南	ラオス・ベト ナム	インタビュー
H28	広州	香港	インタビュー
H28	東北	(越境通学) ロシア極東	インタビュー

(1) 25年度では、香港で中国本土から妊婦の移動が急増した実態調査および要因解析を行った。それに加え、新たに関連する国際人口移動となる双非児童家庭の越境通学の実態についても考察・分析した。

(2) 26年度では、ラオス国立大学の協力を得ながら、ラオス、ベトナムへの現地調査、現地の華僑・華人を対象者として国際移動した経緯や現在の生活実態等についてインタビュー調査を行った。それに加え、予想以外の現地の華人の新たな経済活動状況を把握することができた。

(3) 中国との国境付近の人口減少の続く沿海州を中心に、商売上手の中国人が急増していることから、平成 27 年では、中ソ間の国際人口移動の実態調査の準備のため、これまでは協力関係者と調査項目について議論し、

調査員の確定と専門訓練を行った。平成 28 年度では、中ソ間の国際人口移動の実態と移動者(華僑・華人)へのインタビュー調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 中国では、経済発展にともなう農村部から都市部への労働人口の移動や、“一人っ子政策”の厳しい賞罰制度を逃れるための北京・上海などの経済発展を遂げた都市部から香港への妊婦の移動など、人口が流動化している。中国大陸妊婦が香港で出産するケースが急増し、香港の医療機関の大きな負担となり、社会問題になりつつある。香港保安局の資料によると、2001 年の 620 人であった出生数が 2005 年の 9200 人までにのぼり、2010 年に 4 万人を超えており、香港の新生児 8 万 8 千人のうち、45%は中国大陸の妊婦が生んだ子供であった。また、香港で“双非”と呼ばれる児童が深刻な社会問題を引き起こしている。香港に居住権を持たない中国本土出身の夫婦が香港で越境出産をすると、その子女は“双非”と呼ばれる。香港教育局の統計によると、越境通学児童の数は 1997 年の時点では 500 人程度だったが、2010 年は 30 倍以上の 1 万 6000 人にも上っている。就学児童の急増は学校の受け入れ態勢が追いつかない、経費の増加など現地の教育機関に大きな負担となっている。また、地元の学童が入学できずにあぶれるという事態も生まれつつあり、香港人と中国大陸人の摩擦の原因になりうる懸念されている。このように、18 万人の双非児童の教育問題が大きな課題である。曁は現地実態調査を行い、越境出産する妊婦を対象にして香港出産の原因やルートを明らかにし、双非児童家庭の越境通学の実態についても考察・分析した。

(2) 中国は世界に華僑・華人を約 4,000 万人近くも進出させてきた歴史があり、世界の人口流動化にもっとも大きな影響を与えているという観点から、中国人のグローバルな人口流動の要因解析は、世界の人口問題を研究する上で、社会的に重要な意義を持つ。中国雲南省と国境を接することからミャンマー、さらにはラオス、タイ、ベトナム、カンボジアとメコン河の運輸交通の拡大から、国境をこえた人と物の移動がインドシナ半島で日に日に巨大化している。メコン川流域における人口流動化は、中国の人口問題が周辺の複数国家に多極的な影響を及ぼした、重要なフィールドケースである。本研究では、中国の主要な研究機関とのネットワークに加え、本学独自のメコン川流域におけるネットワークを活用し、要因である中国側と、影響を受けた側であるメコン川流域諸国という、多角的観点から調査・解析を実施した。具体的に、本調査は次の 2 段階に分けて行った。第 1 段階では、中国の華僑・華人の大量流出地である福建省永定県に現地調査を行った。なお、調査協力者としては、福建省永定県は

県政府および福建省から留学中の黄衛鋒（当時・本学博士課程在籍）である。第2段階では、中国の雲南省からベトナム、ラオスへの現地調査、現地の華僑・華人を対象者としてインタビュー調査を行った。なお、調査協力者としては、ラオス国立大学である。また、日本については、一人っ子政策後に生まれた中国人の留学生、就学生、研修生の流入問題の実態と意識調査を行い、日本の社会および今後の日中関係にどのような影響を与えられるかが明らかになった。

（3）ロシアの人口減少はとりわけ極東沿海地域で極めて深刻である。その理由として、1991年にソビエト崩壊後、極東地域の政治的役割が消滅したことが挙げられる。例えば市全体が軍の拠点であったウラジオストクも、いまでは観光化されてしまった。また、賃金の割増が1989年からなくなったために、物価高や治安悪化で寒冷な極東であえて働く魅力がなくなり、モスクワ周辺やふるさとのより生活しやすい地域に帰郷したため、人口減少が著しい。さらには、ロシア全体にもいえることだが、人工妊娠中絶や離婚率は世界一の高さまで上昇しており、出生率低下につながり、急速な人口減で危機にある。プーチン政権になって以降、子たぐさんの若夫婦への住宅ローン免除など、人口増強政策に手をうっているが効果は容易でない。こうした中国との国境付近の人口減少化の続く沿海州を中心に、商売上手の中国人が急増している。平成28年度において、中国遼寧省瀋陽市にて研究交流し、中国の経済学者、人口学者、社会学者の方々と大いに議論し、情報・資料収集ができ多くの知見を得られた。さらに、中ソ間の国際人口移動の実態と移動者（華僑・華人）へのインタビュー調査を実施した。

以上の研究内容を踏まえ、本研究では、中国の経済発展および人口抑制とグローバルな人口移動の関係について、2015年までの一人っ子政策に焦点を当てた実証調査を行い、日本に代表される少子高齢化が進んだ周辺各国に対する長期的な影響を予測した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

馮文猛・轟海松、日本首都圏発展歷程及規劃変遷、東北亜学刊、査読有、2017(9月刊行予定)

馮文猛・轟海松、人口高齢化に関する日中比較分析、跨界 人際と国際、査読有、2016、pp.221-232

黄衛鋒・轟海松、中国における高齢者サービス産業の現状と課題、共生社会システム研究、査読有、第9巻1号、2015  
NIE HAISONG, China's Population Problem- A Sociological Survey of 1900

Subjects, ASIAN RURAL SOSIOLOGY, 査読無、(2), 2014, pp.171-179

轟海松、中国農村部人口の流出に伴う高齢者の養老生活への影響に関する研究 湖南省の社会学的実証調査に基づく、共生社会システム研究、査読有、第9巻、2014、pp.65-87

〔学会発表〕（計 19 件）

馮文猛・轟海松、人口老齡化的中日比較分析、中日社会学専門委員会成立大会、2016年11月13日、北京（中国）

仲永・轟海松、新型都市化計画が中国農村部の生活環境にもたらす影響について-山東省青島市の事例から-、日本村落研究学会、2016年11月5日、萩セミナーハウス（山口県・萩市）

仲永・轟海松、中国における新型都市化の現状と課題について、日本現代中国学会第66回全国学術大会、2016年10月30日、慶応大学（神奈川県藤沢市）

仲永・轟海松、中国における国家新型都市化計画について、共生社会システム学会2016年度学会、2016年10月2日、東京農工大学（東京都府中市）

轟海松、中国の人口問題、日本人口学会第68回大会、2016年6月12日、麗澤大学（千葉県柏市）

黄衛鋒・轟海松、中国都市部と農村部における高齢者の生活実態と社会保障の考察 2014年7省の実証調査をもとに、日本村落研究学会第63回大会、2015年11月7日、和良町民センター（岐阜県郡上市和良町）

轟海松、中国都市部と農村部における高齢者の生活実態と社会保障状況、日本現代中国学会2015年度大会、2015年10月25日、同志社大学今出川キャンパス（京都市上京区）

黄衛鋒・轟海松、中国における高齢政策とシルバー産業の考察、共生社会システム学会2015年度大会、2015年7月12日、早稲田大学（東京都新宿区）

轟海松、中国の人口移動から生まれた社会問題 香港の実態調査に基づく、日中社会学会第27回大会、2015年6月7日、北海道大学（北海道札幌市）

NIE HAISONG, China's Population Problem- A Sociological Survey of 1900 Subjects -, The 5th International Conference of the Asian Rural Sociological Association (ARSA), 2014年9月3日、National University Laos  
轟海松・黄衛鋒、中国大陸からの越境出産の現状と課題、共生社会システム学会2014年度大会、2014年8月3日、北海道酪農大学（北海道江別市）

NIE HAISONG, WEIFENG HUANG, Aging and China's Silver Industry, International Sociological

Association, 2014 年 7 月 19 日、パシフィック横浜（神奈川県横浜市）  
NIE HAISONG、WEIFENG HUANG, Current Social Welfare Conditions in China, the XVIII ISA World Congress of Sociology, 2014 年 7 月 17 日、パシフィック横浜（神奈川県横浜市）  
聶海松、中国一人っ子政策による人口移動への影響 香港への越境出産・双非児童・越境通学の実態調査に基づく、第 66 回日本人口学会、2014 年 6 月 14 日、明治大学 駿河キャンパス（東京都千代田区）  
NIE HAISONG, Population Aging in China: Challenges and Opportunities, THE NINTH ANNUAL CONFERENCE THE ASIAN STUDIES ASSOCIATION OF HONG KONG (ASAHK), 2014 年 3 月 15 日、The University of Hong Kong  
聶海松、中国高齢化に直面する挑戦と機会、香港アジア研究学会、2014 年 2 月 14 日、香港大学  
聶海松、黃衛鋒、北京市都市部と農村部におけるシニアの消費状況と市場動向、日本村落研究学会第 61 回（2013 年度）大会、2013 年 11 月 2 日、福井大学（福井県越前市）  
聶海松、北京市における中高齢者市場に関する考察、日本現代中国学会第 63 回全国学術大会、2013 年 10 月 26 日、福岡大学（福岡県福岡市）  
聶海松、中国のシルバー産業の需要と供給に関する研究、日本人口学会第 65 回大会、2013 年 6 月 1 日、札幌市立大学（北海道札幌市）

楊非凡 (YANG, Feifan)  
陳創斌 (CHEN, Chuangbin)  
時權 (SHI Quan)  
謝仁義 (XIE Renyi)  
李兵 (LI Bing)  
裴帥 (PEI Shuai)  
姚志国 (YAO Zhiguo)  
黃志偉 (HUANG Zhiwei)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

聶海松 (NIE HAISONG)  
東京農工大学・大学院農学研究院・助教  
研究者番号：10626716

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

馮文猛 (FENG, Wenmeng)  
陳嬰嬰 (CHEN, Yingying)  
楊嫻 (YANG, Huan)  
潘曉春 (PAN, Xiaochun)  
黃衛鋒 (HUANG, Weifeng)  
仲永 (ZHONG, Yong)